

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370101210		
法人名	株式会社グループホーム		
事業所名	グループホーム吹上の杜		
所在地	愛知県名古屋千種区小松町7丁目14番地-1		
自己評価作成日	平成23年10月4日	評価結果市町村受理日	平成24年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26番地 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成23年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの思いを大切に、開放的な空間の中で一緒にテレビを観る、話をし笑い合いゆったりと過ごす…そんな当たり前の日常生活の雰囲気を大切にしています。

又、ADLの維持・向上に向けて毎日集団体操、個別運動を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の隣りに自然に座れることができるには、普段から笑顔で接することが大切であることを念頭にいれて利用者に関わっている。毎日の日課としてラジオ体操や棒体操などを行い筋力維持に努めている。家族との関係も良好で、外泊したりドライブに行ったり、コンサートに行くなど利用者に対して馴染みの場所や人が途切れない関わりにより協力的である。天気の良い日は散歩に出かけ、近所の人と話をしたり、地域のお祭りにも出席し地域との交流にも努めている。年間の研修計画に沿って、研修を行い職員のスキルアップにつなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に会社理念を掲示することにより、誰でもいつでも見れるようにしてある。又、事業所独自に【笑顔を第一に、安心できる生活支援】を念頭に置き、ケアを実践している。	理念は細かく分けて6つあり、玄関の目に付きやすい場所に掲示している。業務に追われがちで理念から外れそうになることを意識し、日頃からスタッフ会議でも話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のお祭りや行事に参加させて戴き、交流を深めている。又、日々の散歩での挨拶や談笑を積極的に行っている。	町内会の回覧が回ってきて、町内の行事に参加している。町内会長が地域との関わりに協力的である。10月に行われた小松町祭りには席も用意されており、利用者も楽しみにしている行事である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、過去に認知症講座を開催したことがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス内容はもちろん、評価内容、評価を報告し、今後のサービス向上に向けて意見交換を行っている。	今年度は年4回行われた。ホームの行事報告や利用者の状況の他に意見交換では疾病や食物に関する話題なども出て、話し合っている。	年6回の開催を望む。町内会長にも話をし、協力してもらえよう望んでいる。また、会議に地域包括支援センター職員が参加してもらえよう取り組みを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事があれば連絡を取っているが、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えるような取り込みには至らず。	今年度はスプリンクラー設置の件で役所へ出かけることが多く、情報の交換ができた。また、生活保護の件で区役所へ相談に行っている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加してもらえよう取り組みを期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は一切施錠を行っておらず、誰でも自由に外出ができるという安心感に繋がっている。身体拘束については、定期的に勉強会を開催している。	拘束とは具体的に何を指すのかを日頃から確認して、より良い支援の提供に努めている。年間の計画の中に身体拘束についての研修があり、勉強会を行なっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待チェックリストを使用し勉強会にて防止に努めている。又、サポーター同士で言葉遣いを意識し互いに注意し合える環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者自身勉強中にて、職員の理解にまでは至らず。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する前に、まず契約書類や規程等をゆっくりと目を通す時間を設けている。又、実際の契約時にも説明を行い、疑問や不安点に答えられるようにしている。(未経験)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、手紙や訪問時、運営推進会議等で常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。出された意見や要望等はミーティングで話し合い反映させている。	家族の面会が多い。手書きの「吹上便り」を定期的に発行している。家族からの要望で居室の掃除を利用者と職員とで行なって欲しいとあり、実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでは全員が意見を出せるような雰囲気作りを心がけている。又、定期的な個人面談を行い、問いかけたり、聞き出ししたりしている。	月1回の職員会議ではカンファレンスや業務の見直しについての話し合いがされている。職員より食材の業者を変えて欲しいと意見があり、検討して業者を変えることになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得支援制度を設けている他、年に2回の人事考課を行い、職員が向上心を持って働けるよう働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での勉強会の他、外部研修の情報を収集し、職員段階に応じて受講ができるようにしている。又、研修報告をしてもらい、全員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での施設間交流の機会を作り、意見交換やサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談では必ずご本人と話す時間を設け、これまでの生活スタイルや思いを傾聴し、把握するように努めている(未経験)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人とご家族の思い、状況等を確認し、事業所としてはどのような対応ができるか、事前に話し合い、提案を行っている(未経験)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、ご家族の思いや状況を確認し、改善に向けた支援の提案等行っている。必要に応じて、他のサービス利用の情報も提供する(未経験)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と個別で居室でゆっくり話し合い本人の思いや苦しみを分かち合い、お互いが相談出来る環境を作っている。入居者の要望も取り入れるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々、些細な変化も家族に伝え、情報を共有している。協力関係が出来るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が望み、毎月お墓参りに出かける方、毎週知人の方と外出される利用者もおり関係を維持していけるように努めている。	利用者の知人が毎週来て、一緒に外出している人もいる。また、家族とお墓参りに出かけたり、毎週外泊する人もいる。馴染みの場所や人との関係維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同体操やレクリエーション、生活活動を通じて利用者同士と一緒に過ごす時間や利用者同士で声をかけ合い一緒に入浴する場面も多い。利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらからは断続的な関わりを持つような働きかけをしていないが、契約終了後もご家族から手紙をいただいたりする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の嗜好を探り食事の献立として出している。また外食支援の際には利用者の食べたい店に行くように努めている。意思疎通が困難な方には、幾つかピックアップし表情や仕草を観察し、理解に努めている。	利用者との会話を大切にし、何気ないひと言やしぐさを見逃さないようにして本人の希望や意向を把握し、支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	趣味を継続出来るような環境を維持し、出来る限り継続できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ること、出来ないことを見極めた上でやれる範囲内で役割を持っていただく。その上で自立支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関りの中でご本人やご家族に思いや意見を聞き、プランに反映させるようにしている。又、アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	定期的にモニタリング、介護計画の見直しを行なっている。その際家族の要望を確認し、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況や変化などをケア記録に記載し、状態把握を行い、申し送り、連絡ノートにて職員間の情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制をとっており、些細な体調変化も連絡しあい利用者の健康管理を行っている。緊急のご家族との外出、外泊も要望があれば臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で開催されるいきいきサロンや町内祭りなどに参加し、散歩などでも地域住民から声をかけてもらっている。またこちらからも働きかけボランティアの受け入れも行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が直接医師に相談することもあるが、本人が自らの状態を認識していない場合や遠慮をして何も言わないような時もある為、職員が付き添い状態報告や伝達をしている。	利用前からのかかりつけ医に家族同行で受診したり職員が付き添ったりしている。協力医による訪問診察の他、週4回訪問マッサージも行っている。また医療機関どうしの連絡もとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を設備しており、24時間体制で健康管理や状態変化等の報告、相談に応じてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会を行い、利用者の状態把握・ご家族との情報交換を行っている。早期退院に向けて家族、担当医師との相談に努め、退院後のケアについての情報共有も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針の同意をご家族からいただいております。事業所が対応し得るケアについての説明を行っている。又、本人、ご家族の意向を踏まえ、医師と連携をとり随時相談できる環境に努めている。	看取り自体は行わない方針であるが、管理者は終末期に向けた勉強をしている。症状が変化した場合、その都度本人・家族の意向を確認し医師・病院と連携を取りながらケアの方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応に関してはマニュアルを用意し、勉強会を始め職員の周知に努めているが、定期的な実践訓練までには至っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路や手順等のマニュアルを作成し、定期的に避難訓練を行っており緊急時に職員が対応できるように努めている。	年2回、日中と夜間の自主避難訓練を実施している。エレベーターが使用できなくなることを想定し、階段の上り下り運動を普段から取り入れている。スプリンクラーは10月中に設置完了の予定である。	今後、避難訓練に地域の方にも協力をしてもらえよう呼び掛けていかれることを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意思や気持ちを大切に、本人のペースに合わせたさりげない声かけやケアを行えるよう努めている。	利用者の気持ちとペースを大切に、本人の尊厳やプライバシーに配慮した声かけができるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の趣味や好きな話ができるよう準備をしている。本人が希望を出しやすいような声かけ、アプローチを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行きたい所へ外出したりするなど個別ケアにも積極的に取り組んでおり実践しているが、業務上の問題で施行できない時もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立度の高い方は自ら更衣整容を行っているが、自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考え好みを把握しながらコーディネートをしていることが多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的なメニューは1週間を通し決めておくが、随時、利用者の食べたい物に変更したり、季節や行事に合わせて変更するなど臨機応変に対応している。準備や片付けなど利用者と職員と一緒にやっている。	大まかな献立は1週間単位で決まっているが、可能な限り利用者の要望に応じている。好評だったメニューを写真付きのファイルに保管し、その中から利用者が選ぶこともある。利用者で手伝える人は、準備や片付けも一緒に行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を毎日記録し把握している。又、本人が食べやすく、飲みやすい食事の変更、形態にするなど、食が進むように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて、個々の力に応じた口腔ケアを行っている。又、週に1回歯科衛生士により口腔状態の確認と指導をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力で排泄可能な方でも見守りや排泄状況の把握を行っている。介助の必要な方の場合でも、出来ることを奪わず自立に向けた支援を行っている。対応の改善によって失禁が減ったケースもある。	排泄チェック表を利用して一人ひとりの状況を把握し、失敗に対する利用者の不安を上手に取り除きながら排泄の間隔を工夫するなどして誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	すぐに薬に頼るのではなく、自然排便ができるよう、水分量の把握やバランスのいい食事作りに努めている。又、体を動かさず運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間等は決められているが、気持ち良く入っていただく為に、一人ひとりの誘導のタイミングやペースを大切にしている。	週4日入浴日を設定し、そのうち2回以上入浴してもらっている。南側にある明るい浴室は十分な広さがあり、仲の良い利用者同士一緒に入浴することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に覚醒されるケースが多々あるため日中の活動を促して安眠できるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容についてはカルテで閲覧できるようにしている。また、症状の変化や改善があった場合は随時医師に報告相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合い喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事(洗濯、皿洗い等)を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は散歩するなど戸外に出るようにしている。外出支援については、事前に下見やスケジュールを立て、事故やトラブルが起こらないよう留意している。	天候の良い日は夕方に近所の散歩に出かけている。スーパーマーケットへの買い物や喫茶店、うなぎ屋での外食、家族とコンサートに行くなど色々な外出を支援している。春にはお花見にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、個人のお小遣いとしてご家族よりお預かりし、管理者が金銭管理をしている。本人が所持し自由に使えるような環境整備には至っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状などを本人に書いてもらっている。うまく書けない場合には職員が協力している。電話に関しては携帯電話を所持している方がおり自分で対応したり、必要に応じて、スタッフを交えこちらから電話をして話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアには花を飾り、その他でも季節ごとの飾りつけをしている。又、心地よく過ごせるようBGMを流したり、室温や臭いに注意し定期的に換気するなど行っている。	利用者が楽しい雰囲気の中で食事ができるようBGMを流している。また居間には職員が描いた利用者の似顔絵や行事の写真が貼られ、季節感のある飾り付けもされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	なるべく仲の良い人同士が近くなれたり逆に孤立しないように席を配置しているが、日中独りで居室でゆっくりと過ごせるような時間は少ない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族によって使い慣れた家具や小物などを持ち込んでもらっている。居室での活動の際には転倒やその他の事故につながるよう考えてレイアウトしている。	家具や書籍、パソコン、観葉植物、趣味の道具等、個人の好きなものが持ち込まれている。居室に持ち込んだ座卓で家族が来たときにお茶やおやつを楽しんでいる人もいる	大きめな家具は固定金具を取り付けるなど地震対策にも配慮されるよう期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアや廊下には手摺りを設置し歩行が不安定な方でも自立して歩けるようにしている。居室やトイレに表札を掲げ場所の確認ができるように工夫している。		